HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学附属図書館報「楡蔭」25号
Description	Vol.5 No.3/4
Issue Date	1971-09-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/66804
Type	journal
File Information	yuin25.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

北海道大学附属図書館報

楡蔭

The Hokkaido University Library Bulletin Vol. 5, No. 3/4 Aug. 1971

「図書利用の形態」

北大工学部 柏村正和

図書館委員になって二年目，わからないながらも何となく図書館の輪廓が頭に形作られてきた。また委員の先生方の発言から全学の図書室の現状やら，図書利用に関する各部局の特色などもおぼろげながら想像できるようになってきた。

楡蔭にのる諸先生の文章から察すると，工学部の，図書または図書館に対する感覚は，当然かもしれぬが理学部または理学系のそれとほとんど変らないようである。そこでは研究者にとって文献は新らしいほど価値があり，年がたつと著るしく値打が下がるように見える。古典は科学史，技術史を研究する人や，教科書を書く人以外殆ど顧みられないように思われる。その大事な新らしい文献を何時でも自由に手にするめには当然自分のところで購入せねばならない。いきおい，最も身近な学科図書室が宝庫になり，しかもそこで大方がこと足りることになる。学部の中央図書室へ足を運ぶことはあまりなく，まして附属図書館へ行くことなど殆どない。

学科図書室の中では，研究者の関心を集めるのはごく新らしいものであり，古くなった書籍雑誌は「捨てるには惜しい」から取って置かれるのであって，殆どが再び開かれることのない永遠の眠りに入っている。したがって紛失したバックナンバーを再購入して揃えようとするような気風は育たない。

多分に誇張的だが，このような傾向は理工系に確かに存在しており，しかもそれは研究の性質がそうさせるように思われる。先人の成果の上に新しい知識，技術を常につぎ足して伸ばしていかなければならない体質がそこにある。

全学の各部局毎に，さらにはその中の部門毎に研究の性質が少しずつ異なるであろうし，それに応じて図書に依然する形態が違うであろう。全学的の一律な感覚で図書問題を扱うのはマイナスにつながるのではなかろうか。

大学改革の波は当然ながら図書館にも及んでいる。最近アンケートを通じて，図書館利用の現状把握をする計画があることも聞いている。結構なことと思う。そしてその集められた資料をもとに画かれる未来図に期待したい。と同時に，部局毎に体質の違いに応じて生じている図書利用の形態の差を，この際はっきりと把えて，互いにその立場を尊重しつつ，しかも共存していくための能率的な機構の構想が生まれることを期待したい。

蛇足としてつけ加えると，先に述べた最新文献に血眼になる体質を，私自身は諸手をあげて喜んでいるわけではない。もっと文献を離れて，あるいは悠々と古典をひろげて，自分自身の中に生まれ育つ独自の発想を楽しむ体質の出現をひそかに望んでいる。

北海道大学附属図書館報告書

昭和46年5月

館長 今村成和

(内容) 1. 現状の概要
2. 機能の概要
3. 今後の主な問題

一 現状の概要

1. 施 設

北海道大学附属図書館および教養分館の建物・設備等の概要

I. 附属図書館（本館）…… 開館 昭和41年4月11日

(1) 建 物

総建坪数	12,519 m²
保存書庫(旧館)	712 m²

(2) 内部設備（事務関係は省略）

(イ) 閲覧室

開架図書閲覧室	156席	620 m²
配架図書数	約18,000冊	
一般閲覧室	212席	585 m²
参考図書閲覧室	80席	620 m²
参考図書	3,500種	10,000冊
国連コーナー		3,000冊
北海道資料コーナー (216 m²)		12,000冊
近代文学コーナー (45 m²)		3,000冊

学術雑誌閲覧室

新刊雑誌	和	1,125種
	洋	273種

新聞閲覧室

日刊紙	購入	13種
	寄贈	25種
週刊紙	購入	7種
	寄贈	21種
その他	29種	
閲覧個室	21室	315 m²

(ロ) 語学演習室 20席 54 m²

(ハ) 複写室 144 m²（暗室4室を含む）

コダグラフ・マイクロフイルム撮影機
ゼロックス720型電子複写装置（レンタル）
エレファックス 1,000
エレファックスプレス-P リーダープリンター

印刷室 54 m²

エレファックス PC 301 型 (電子写真製版機)
リコー・オフセット印刷機 OFAI 型
A・B ディック・オフセット印刷機 325 B 型
ノーフィン丁合機及び紙折機
製本室 600 m²
本製本・仮製本 約 8 千冊

(ニ) 書 庫

新館 6 層 4,526 m²
単行本換算 約 100 万冊収容可能
旧館 712 m²
単行本換算 約 15 万冊収容可能

II. 教養分館 …… 開館 昭和 44 年 12 月 15 日

(1) 建 物

総建坪数 2,406 m²

(2) 内部設備 (事務関係省略)

(イ) 閲覧室

一般閲覧室 128 席 246 m²
開架図書閲覧室 (2 階) 112 席 424 m²
配架図書数 約 30,000 冊
開架図書閲覧室 (3 階) 242 席 424 m²
配架図書数 (教官指定書) 4,500 冊
新聞閲覧室 72 m²

(ロ) 書 庫

5 層 347 m²
単行本換算 約 8 万冊収容可能

2. 蔵書数

(1) 本館収蔵 496,045 冊
内, 文学部図書 約 100,000 冊
法学部図書 96,263 冊
経済学部図書 約 26,000 冊

(2) 分館収蔵 31,813 冊

3. 業 務

(1) 整理関係業務

これは, 図書の選択, 発註, 受入, 分類, 目録カード作成及びファイルに関する業務である。本館及び分館購入分の外, 各部局購入図書についても, 次のような仕事を行なっている。

(イ) 全学の洋雑誌の契約・発註は一括本館で行う。

(ロ) 単行本についても, 全学図書総合カード編成の外受入以後の事務についても一部本館が分担している。

(2) 閲覧関係業務

(イ) 本館及び分館所属図書 (文・法・経の本館収蔵分を含む) の館内閲覧及び貸出に関する業務

館内閲覧は，開架閲覧室（学生），一般閲覧室（一般）および参考図書室，学術雑誌閲覧室（主として教官）において行われる。

閲覧時間

午前9時から午後5時まで（但し開架閲覧室は午後7時まで），分館午後7時まで

なお，一般閲覧室は，閉館後も，午後9時迄自習室としての利用に供している。

(ロ) 書庫の管理に関する業務

本館書庫の外，保存書庫（旧図書館書庫及び旧医学部書庫）の管理がある。保存書庫には各部局の保存図書を保管する。

(ハ) 語学演習室の管理・運営

(3) サービス関係業務

(イ) レファレンスサービス（事項調査，書誌的調査，文献所在調査）

(ロ) ゼロックス・マイクロフイルムによる複写サービス

※上の(イ)及び(ロ)は，学内外の依頼に応じている。

(ハ) 印刷・製本関係業務

4. 組織及び人員

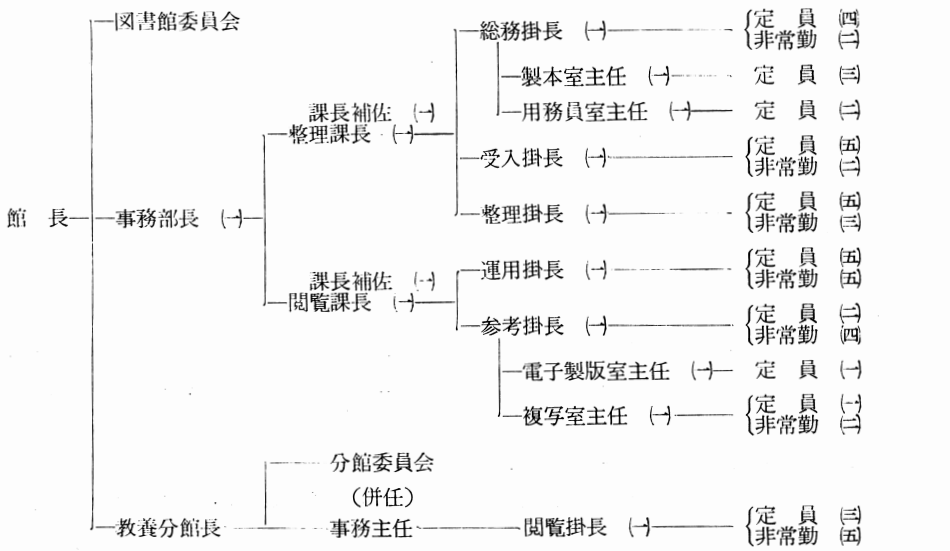
以下の通りである。事務部長以下69名中，非常勤職員が23名にのぼつている。

なお，右の外図書出納事務に従事するため，運用掛には法学部から2名，文学部から2名，経済学部から1名の職員が併任されている。

内訳	定員	46名
	非常勤	23名
	計	69名

北海道大学附属図書館機構図

（昭和46年5月15日現在）



二 機能の概要

1. 機能の態様

大学図書館に求められる機能はつぎの4種に分類されるのが普通である。

イ　学習図書館の機能
学生の学習，教養に資する。

ロ　研究図書館の機能
研究者の文献利用に奉仕する。

ハ　総合図書館の機能
全学的立場から学問の各図書館（室）それぞれの機能を有機的に連絡，調整あるいは補完して，全学的図書館活動の効果を高める。

ニ　保存図書館の機能
利用度の低下した図書を別に集めて保存，管理する。

2. 本学における機能分担

大別して次のとおりである。

	（館　種）	（主な機能の態様）
全館学組織図書	附属図書館（本館）	総合，学習，研究，保存
	教養分館	学　習
	各部局図書室（館）	研　究

三　今後の主な問題

1. 図書館の管理運営について

(1) 総合図書館として
情報量が爆発的に増大しつつある今日，限られた予算と人員の枠内で，急増する図書資料の収集と利用の効率化のためには，全学的見地よりする，図書の重複購入の調整，機械化による図書整理作業の集中，情報検索，コンテンツ・サービス機能の充実などがはかられなければならないが，そのほとんどは，まだ将来の課題として残されている。

(2) 学習図書館として

イ　教養分館の完成（昭44. 12）により施設は著しく改善されたが，すでに狭隘化するに至つている。幸いその後基準坪数が増加することになったので，その分の増築を至急実現したい。

ロ　学習用図書の備付状況は，質量共に甚だ不十分である。今後共できるだけ予算をふやし，充実に努める必要がある。

(3) 研究図書館として

イ　本館は，各部局の協力を得て，本学の蔵書構成が，全学的にみて均斉のとれたものとなるように，部局間，あるいは，全学的な共同利用に供せられるべき図書の収集に努めている。この機能も更に充実する必要がある。

ロ　本館は，人文系4学部の研究図書館を兼ねることになっているが，実際には教育学部を除く3学部の図書の一部を書庫に収容し，その貸出業務を行っているに過ぎない。従って，この点については，改善を要する点が多々あるが，目下，法学部との間では同学部図書事務の一括移管（人員の配置換を含む）に関し協議中である。

(4) 保存図書館として
図書館旧書庫及び旧医学部書庫をこれに当て，合計25万冊の収容が可能であるが，とくに自然科学系図書のライフ・サイクルが5年に過ぎないといわれている現在，近い将来において，これら稀用図書の収蔵方法も抜本的解決を要する問題となろう。

2. 全学的図書管理体制について

(1) 組織機構

現在，本館と分館とは一体的運営の下にあるが，部局図書室（館）は，各部局の管理下にあって，附属図書館に対しては，独立的地位にある。しかし，総合図書館的機能の充実のためには，現状のままでよいかどうかは問題であろう。

(2) 人事管理

現在，部局図書室の職員は，当該部局の所属となっているが，図書業務の全学的な連絡調整関係の緊密化を図る上にも，また，もともと他の事務系職員とは資格を異にする図書系職員の処遇の上からも，その人事管理は附属図書館長の下に一元化する方が望ましいのではないかと思われる。

3. 附属図書館の充実について

(1) 本館及び分館の事務機構

本館の機構は，先に掲げた機構図のとおり現在5掛を有するに過ぎない。これは，国立7大学附属図書館の中でも，すでに最小規模のものであつて本館としてはかねてから総務課の新設を要求しているが，上述のように全学的な図書管理機能の充実をはかり，その中枢に附属図書館が位置づけられるとすれば機構充実の必要は一層切実なものとなろう。

なお，分館についても現在1掛を擁するに過ぎず，その機構の充実（1掛の増設）は，緊急のこととなっている。

(2) 人員の問題

現在，本館及び分館は定員合計46名に対して非常勤職員23名を抱え，このための賃金が年額約12,000千円（45年度）にも達し，図書館予算の約25%を占めている。このことは，到底側全な図書館経営と言い難いであろう。この上さらに第二次定員削減に問題をも控え，その対策に苦慮しているしだいである。

(3) 予算の問題

本館及び分館の予算は，文部省配当の図書館予算と北大共通経費予算からの流用配分によって充当される。所謂ヒモ付予算と学内共通経費との比率は，45年度においてつぎのとおりである。

本館予算	北大予算 60.8% 25,756千円	
	文部省予算 34.2% 13,389千円	
	（計 39,145千円）	

分館予算	北大（教養部）予算 100% 8,391千円

本館十分館	北大予算 71.8% 34.147千円
	文部省予算 28.2% 13,389千円
	（計 47,536千円）

このように，図書館予算は，それを増額しようとすれば文部省のヒモ付予算が増大しない限り，常に学内共通経費にその増額分を依存せざるを得ない。そして学内共通経費の源資は，いうまでもなく主として教官当積算校費であるから，図書館経費の増大は，研究費の圧迫，一不当でないまでも望ましくない圧迫一として迎えられることになりかねない。幸い本学では，これまで図書館予算については，評議会等の理解ある支持を得て

いるが，基本的に図書館経費と教官研究費とが競合関係に立つことは望ましくないことであって，文部省による図書館配当予算の大幅に増額されるべきである。このことは，国立大学図書館協議会等からも繰返し文部省に訴えているが，更に大学としての強い力添えを望みたい。

結　び

大学図書館の改善，強化に関しては，たとえば，国立大学協会においても，図書館特別委員会が設けられ，昨年6月国大協の名による「大学の研究・教育に対する図書館の在り方とその改革について（第一次報告）」が公表された。また国立大学図書館協議会においても，この問題に対しては，正面から取り組んでいるが，本学においても，北大改革検討委員会の第1—2専門委員会において，図書館改革が検討されようとしている。従って，本稿に提示した問題あるいはその他については，上記専門委員会によってさらに詳細な分析と綿密な検討が加えられることが期待される。このような全学的なレベルでの検討は，本学の図書館組織によって画期的なことであり，その成果が期待されるが，附属図書館としても，また部局図書室（館）としても，問題を自らの問題として自覚し，機能の向上，充実へ一層の努力を続けなければならないと考える。

この報告書は，さる6月29日今村館長から丹羽学長に提出されたものである。なお，これには資料として各種統計等が添付されたが，ここでは省略した。

◆ 会　議

第54回 図書館委員会

<と き　5月22日（土）>
<ところ　附属図書館会議室>

1. 昭和47年度歳出概算要求について

館長から昭和47年度歳出概算要求について配布された資料に基づき，各事項別に説明を行ない審議ののち全員異議なく了承された。

なお，教養分館の増築の件は，本学の図書館の資格基準坪数が，2団地に分けられ北の団地に2,210 m² の基準坪数の余裕を生じたものによる旨説明された。

2. 昭和45年度決算報告及び昭和46年度実行予算について

館長ならびに事務部長から配布された資料につき，各事項別に説明を行ない審議ののち全員異議なく了承された。

3. 報告事項

館長から次のとおり報告があった。

改革検討委員会第1—2専門委員会を近く開催し，事務改善委員会によって作成された「図書利用についてのアンケート」原案を付議する予定である。

第55回 図書館委員会

<と き　6月26日（土）>
<ところ　附属図書館会議室>

1. 第2種閲覧個室利用者の選考について

第2種閲覧個室の収容人員42名に対し，45名の申し込みがあったので，申し込み理由のなかで，自由研究で論文等作成期限のないもの1名（文学部）と論文作成時期が49年となっているもの1名（文学部）

の計3名を除く42名につき許可することを決定した。

2. 報告事項

館長から次のとおり報告があった。

(1) 北大改革検討委員会第1—2専門委員会について第3回委員会（6月14日開催）において，対教官アンケート案について審議ののち決定した。対学生アンケート案については次回の同委員会で審議する。

なお，今回のアンケート調査集計は，北大大型計算機センターの協力により，マークセンスリーダーを使用して行なう。

(2) 昭和47年度歳出概算要求について

昭和47年度歳出概算要求の教養分館の増築は，去る6月16日の評議会において文部省に要求されることが了承された。なお，これは，現在建物の南側に増築する計画で，去る6月14日の施設計画委員会において了承されたものである。

(3) 昭和46年度所要経費について

第54回委員会で了承を得た所要経費について事務局に要求をした結果多少減額されたが大筋において変更はなかった。なお，来る6月28日の部局長連絡会議，6月30日の評議会において最終決定の予定である。

(4) 北海道大学附属図書館報告書について

丹羽新学長はかねて各部局の事情聴取をされているが，本館としては現状と問題点につき，館長から報告，説明を行なうとともに報告書を提出したのでその写を図書館委員に配布した。

(5) 第18回国立大学図書館協議会について

去る6月1日から6月4日までの4日間岩手大学を会場として総会が開催され，前年度に引き続き「新しい大学図書館像特別委員会」が設置され次の4テーマを研究することとなった。なお，北海道大学も同委員会の委員となっている。

1. 総合的収書計画について
2. 保存図書館について
3. 大学図書館の予算のあり方について
4. 学生用図書費の基準について

第56回 図書館委員会

<とき 7月10日（土）>
<ところ 附属図書館会議室>

1. 昭和46年度実行予算について

(1) 館長から，配布資料に基づき，昭和46年度附属図書館および，教養分館の予算配当（6月30日評議会決定）について報告があった。

(2) 館長から次の事項について配布資料に基づき事項別に説明があり引き続き審議が行なわれ，それぞれ異議なく了承された。

（イ） 昭和46年度附属図書館事項別予算配当案について
（ロ） 昭和46年度附属図書館図書予算配分（案）について
（ハ） 昭和46年度教養分館図書予算配分（案）について

なお，この審議中，語学演習資料については，一般的な言語だけでなく特殊言語についてもできる限り充実してほしい，との要望が出された。

第15回 教養分館委員会

<とき 4月21日（水）>
<ところ 教養分館長室>

1. 委員の推せんについて

(1) 図書館委員の推せんについて

昭和46年度の図書館委員は，渡会委員の後任として理学部大野鑑子教授が推せんされた。

(2) 分館委員の推せんについて

従来の慣行に基づき保健体育講座担当教官のうちから選出を依頼することとし，該当者が，居なかった場合は改めて社会系諸学科または語学担当教官のうちから選出することとした。

2. 分館の増築計画について

審議の結果異議なく了承され同計画を昭和47年度概算要求事項とすることとした。

3. 昭和46年度分館図書費の要求について

昭和46年度分館図書費要求額については，45年度の決算額を基礎として要求額を算定すること，および蔵書構成上とくに参考図書を充実する方針を決定した。

4. そ の 他

(1) 分館図書の所属について

従来，教養分館所蔵の図書については，その購入に充てられた予算が，教養分館であるか附属図書予算であるかによって，それぞれ物品管理上の所属がわかれていたが，このことは，図書の管理，運用上障害となるので，今後は，すべて附属図書館の所属とすることを決定，このため，従来教養部予算の中に含めて要求してきた分館図書購入費は，今年度から，附属図書館予算の一環として，予め教養部から切り離して要求する等の必要措置をとることとなった。

(2) 昭和46年度附属図書館教官指定図書費の配分について

配分案について審議，昨年どおり配分することを決定した。

(3) 教官閲覧室をゼミ室として臨時に使用する要望について

東出助教授，田中助教授より提出された要望について審議の結果当面教官閲覧室を使用することが了承された。

なお，この場合，図書館の参考資料を利用することが付帯決議された。

第16回 教養分館委員会

<と き 5 月 18 日 (火)>
<ところ 教 養 分 館 長 室>

1. 昭和46年度分館図書予算および経常費の要求について

原案について審議の結果異議なく了承された。

2. 昭和46年度概算要求について

次の三点について概算要求をすることについて審議が行なわれ，異議なく了承された。

(1) 前年どおり文部省に教官指定図書費1,600万円を要求すること

(2) 分館の増築 (2,210平方米) を要求すること

(3) 分館の増築にともない参考資料の充実を図るため特別図書購入費として1,500万円 (約1万冊購入分) を要求すること

3. 分館増築計画について

事務主任より，前委員会以後新たに建築資格面積が863平方米増え合計2,210平方米増になった経過の説明があり，これに基づく教養分館増築案により審議の結果了承された。なお，実施設計の段階では室の使用目的変更その他簡単な設計変更のあることが附加された。

第3・4回 改革検討委員会第1—2専門委員会

<と き 6月14日 (月)，7月5日 (月)>
<ところ 附 属 図 書 館 会 議 室>

第3回 対教官アンケートについて

図書館事務改善委員会で作成されたアンケート案について審議し所要の修正削除を行ない同アンケート原案を決定した。

第4回 対学生アンケートについて

図書館事務改善委員会で作成されたアンケート案について審議し所要の修正削除を行ない同アンケート

原案を決定した。

第4～6回　図書館事務改善委員会

<とき　5月28日（金），6月2日（水），6月21日（月）>
<ところ　附属図書館会議室>

第4～6回は，図書利用についてのアンケート案の作成につき協議した。

◆ 学内図書館だより

チャールズディケンズに関する図書の展示会

附属図書館とブリティッシュ・カウンシルとの共催で，6月9日学長の出席を得て，テープカットを行ない，4日間にわたり，本館展示室で展示会が開かれた。これは，「クリスマス・キャロル」，「デヴィド・コパーフィールド」等の作品で日本でも知られているイギリスの19世紀の代表的作家チャールズ・ディケンズの没後百年に当たり，それを記念して行われたもので，ディケンズ家から寄贈の「二都物語」，「荒涼館」や，未完の小説「エドウィン・ドルードの秘密」の初版本等の貴重な資料を始め，書簡のコピー，興味ある珍らしい写真等が展示された。この他イギリス文学，社会科学関係図書のペーパー・バックス，英語教育関係図書のコーナーを設けるなど，展示にも変化を持たせ，その展示冊数も2,000点を越えた。お蔭で期間中学内外の多くの人々の関心を集め，入室者も約500名を数え，盛会裡に展示会を終了する事が出来た。

▲図書利用についてのアンケート調査実施について

さきに，北大改革検討委員会第1—2専門委員会は，本学における図書利用に関する改善方策を検討するための基礎的資料として，「図書利用についてのアンケート」調査を行なうことを決定し，必要な準備をすすめてきたが，このたび下記の要領で実施することとした。

同委員会としては，できるだけ高い回答率が得られるよう，全学の協力を望んでいる。

なお，今回のアンケート調査の集計はマークセンスリーダーを入力装置としてコンピューターによって行なわれる。

記

アンケート実施： 昭和46年9月
アンケート対象： 教官全員（助手以上）
大学院生
・人文，社会科学系全員
・自然科学系各部局ごと1/2(無作為抽出，以下同じ)
学部学生
・人文，社会科学系 1/5
・理学部 1/5
・その他各学部ごと 1/10
教養部学生 1/10
調査票配布： 附属図書館から送付
調査票回収： 附属図書館，分館および各部局図書室

第18回 国立大学図書館協議会総会

第18回目を迎えた定例の国立大学図書館協議会総会は去る6月2日から4日までの3日間にわたり，全国国立大学の館長，部課長，事務長等約160名，および文部省情報図書館課長，大学図書館係長の出席のもとに，岩手大学を会場として開催された。

会議は一般経過報告，岸本奨励賞選考委員会報告（本年度は応募者なし），各調査研究班報告（①司書職制度調査研究班，②大学図書館建築調査研究班，③大学図書館機械化調査研究班，④参考図書の基準調査研究班）が行なわれ，いずれの報告も充実したものであった。なお上記各調査研究班は，それぞれの担当課題について，昭和46年度も継続して調査研究を行なうことが決定された。分科会は，例年のように第1（予算），第2（人事），第3（奉仕），の3分科会に分れ各地区提出の議題について活潑な審議が行なわれた。また本学が提出した，「学生用図書予算の基準について」は，常務理事会において検討されることとなった。

研究集会は「新しい大学図書館像」をテーマとして行なわれ，新しい大学図書館像特別委員会委員長から経過報告があったのち，①相互協力の問題としての総合的収書計画，②保存図書館について，③大学図書館予算のあり方について，各々担当委員から報告説明があり，それをもとに討議が行なわれた。

なお，文部省側から昭和46年度予算，および昭和47年度概算要求の基本方針等について説明があり，大学図書館の近代化について，積極的な態度がうかがわれた。

本学教官の著作物—本館受贈分—

文学部
藤田清次 Structure and Motif in Middlemarch.
関清秀 都市の家族，都市生活と公害 The Normal Family and the Abnormal Family.
藤田宏達 原始浄土思想の研究
阿部保 ポオ詩集（新潮文庫15，世界の詩47）
アリストテレス詩学，T.S. エリオット詩論の研究
詩集「ギリシャ」

法学部
今村成和 私的独占禁止法の研究 (一)

	小 山 昇	法学読書案内
	五十嵐 清	契約と事情変更
	松 沢 弘 陽	日本の名著 (38)「内村鑑三」
経済学部		
	林 善 茂	アイヌの農耕文化
	荒 又 重 雄	賃労働の理論，ロシア労働政策史
工 学 部		
	酒 井 忠 明	構造力学
	横 道 英 雄	句集「青き繁殖」
低温科学研究所		
	吉 田 順 五	積雪災害の基礎的研究
		雪の科学
	根 井 外 喜 男	凍結・乾燥と細胞障害
		低温生物学概説
触媒研究所		
	堀 内 寿 郎	Hydrogenation of Ethylene on Metallic Catalysts.

北海道大学附属図書館報 「楡蔭」 Vol. 5 No. 3/4 (通巻 25 号)
1971 年 9 月 25 日 発行 発行人 斉 木 一 郎
発 行 所 北海道大学附属図書館 札幌市北 8 条西 5 丁目 電話代表 711-2111 (2966)
印 刷 所 文 栄 堂 印 刷 所 札幌市北 3 条東 7 丁目 電話代表 231-5560